



一般社団法人 日本LD学会

会 報 第 99 号

Japan Academy of Learning Disabilities

【事務局】 〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F
TEL:03-6721-6840 URL:<http://www.jald.or.jp>

主な記事

- ・発達障害者支援法の改正について
- ・発達障害者の就労
- <連続講座>
 - ・障害者差別解消法とは
 - ・就労等における合理的配慮
 - ・海外情報
- <お知らせ>
 - ・第26回大会(栃木)のご案内



2016年 特別支援教育を振り返って

千葉県総合教育センター

内 田 真 弓

2016年夏には、リオ・デ・ジャネイロでオリンピックやパラリンピックが行われ、アスリートの頑張る姿に感動した日々があった。特に、パラリンピックに参加するアスリートの姿や、メダルを獲得するまでのエピソードを聞いたり見たりする中で、アスリート本人の努力は言うまでもないが、周囲の支援から学べる内容が多かったのではないだろうか。

2016年4月に、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」が施行されたこともあり、元保護者から、「合理的配慮について、学校側と話し合いを持つことになった。」「子どもの特徴をどのように話をしていけばよいか。」等の連絡が入った。高校生の保護者からの相談をうけたことは、まだ、高校で相談する場が、少ないからであろうか。それとも、「高等学校における通級による指導の制度化及び充実方策について（報告）」がまとめられたこともあり、高校での支援が充実してきているからだろうか。今後の動向に注目していきたい。

大学生の保護者からも、「単位の取り方も含め、相談にのってもらえる窓口が学内にあるので、相談に通っています。」という話を聞いた。また、大学生からの手紙に、「自分の好きな事、やりたいことが今大学にあるので、頑張って通っています。」と書かれていた。小・中学校では、支援を受けながら自分の良さを見つけ、高校で自分もできることがあることに気づき、大学へと進むことができたようである。これから、更に自立にむけて、就職を考える時期にくるかと思う。

2020年には、東京でオリンピック・パラリンピックが開催される予定である。アスリートが4年後の目標をめざすように、特別支援教育制度は、インクルーシブ教育システムへと発展していくであろう。子どもたちの能力の最大限度までの発達を目指した支援が各教育現場で求められるであろう。今後更に自立をめざした支援が、高校や大学でも行われていくであろう。これからの特別支援教育が更に充実していくことを期待したい。